




学位論文審査の結果の要旨

※ 整理番号		ふりがな 氏 名	やすた まさと 安田 聖人
学位論文題目	Usefulness of CT-lymphography in sentinel lymph node navigation (センチネルリンパ節生検におけるリンパ管造影 CT の有用性)		
審 査 委 員	主査	岡沢 秀孝	
	副査	木村 浩孝	
	副査	長谷川 稔	
<p>【研究の背景・目的】</p> <p>皮膚悪性腫瘍におけるセンチネルリンパ節の同定には RI 法、色素法・ICG 蛍光法など様々な方法が報告されており、その精度を高めるため、いくつかの方法を併用するのが一般的である。しかし、頭頸部領域のリンパ流は複雑で複数のリンパ節群を有していること、耳下腺内リンパ節か耳下腺表面のリンパ節か区別が難しいこと、リンパシンチで複数の集積を認めた場合にそれが 2 次リンパ節か別チャンネルからのリンパ流なのか判断できないことなどの問題点がある。このような問題点の改善を目的に、リンパ管造影 CT の有用性を検討した。</p> <p>【対象と方法】</p> <p>リンパ管造影 CT は、当院倫理委員会で承認を得たのち、2008 年 9 月から 2013 年 3 月の間に同意の得られた皮膚悪性腫瘍 34 症例に対して施行した。水溶性造影剤イオメブローラ（イオメロン®）を 1% リドカインで 2 倍に希釈し、腫瘍周囲数か所にそれぞれ 2～5ml 皮内注射した。注射後は速やかに CT イメージを撮影し画像処理を行った。</p> <p>【結果】</p> <p>34 例中 21 例で造影効果を認めた。腫瘍からセンチネルリンパ節までの距離が離れている四肢の腫瘍では、造影効果が弱い傾向がみられた。造影効果を認めた 21 例では 1～3 個（平均 1.9 個）のセンチネルリンパ節が描出された。これはフチン酸を使用した術前のリンパシンチにより検出されたセンチネルリンパ節の数（平均 1.8 個）と比較して有意差は無かった。通常 shine-through 現象によりセンチネルリンパ節同定が非常に困難な頭頸部領域でも、腫瘍近傍のセンチネルリンパ節を非常に明瞭に描出できた。また、耳下腺領域のセンチネルリンパ節生検では、CT の高い解像度により耳下腺との位置関係がわかりやすいため、耳下腺浅葉摘出が必要かどうかの判断が可能であった。さらに、途中のリンパ管の走行も詳細に把握できるため、複数のリンパ節が描出された場合、それが 2 次リンパ節なのか、それぞれ別チャンネルからのリンパ節なのかの判断が可能であった。</p> <p>【結語】</p> <p>リンパ管造影 CT は簡便で特別な機械を必要とすることなく、センチネルリンパ節の同定率を高めることができると考えられた。また、従来の方法で検出が困難な部位のセンチネルリンパ節も描出可能であった。さらに、リンパ流を詳細に把握できるため、適切な郭清範囲の決定、リンパ節郭清後のリンパ流の変化の把握、subtotal integumentectomy の範囲の決定などに有用と思われた。これらの研究成果は、皮膚悪性腫瘍のみならず、他の悪性腫瘍の診療や研究にも役立つ可能性を示唆するものであり、本学学位論文として十分価値があるものと判断する。</p>			
(平成 25 年 8 月 29 日)			